全体質疑

労働組合の壁を越え、国労と合同献花式

大川委員（米子地方本部）

●伯備線触車事故から、14年が経過。米子支社では、事故発生日に「安全の集い」を開催した。事故後入社の組合員を中心に112名が参加。事故を忘れることなく安全を最優先する企業風土を創るべく、「職場からの安全確立」に取り組むことを再確認した。

また、根雨駅の安全碑に、国労と合同献花式を行った。労働組合の壁を越え、改めて「命の尊さ」を心に刻み、悲惨な事故を二度と起こさない決意を確認した。

●施設・電気系統のウインドブレイカーでは、雨が降るとインナーまで濡れてしまう。通気性・撥水性の高い雨具の支給を要求する。

●6年連続ベアを獲得し、賃金は上がっているが、実質賃金での可処分所得の拡大は得られていない。

米子地本における超勤実績は、昨年比社員一人当たり45分削減、一昨年に比べると、91分の削減実績である。社員一人ひとりの生産性は大きく向上している。満額回答獲得に向けて力強く会社に訴えて頂きたい。

米子地本には、ベアを実施していないグループ会社がある。グループにもしっかり波及できる春闘をお願いする。

●木次線の観光振興のシンボル「トロッコ列車」車両が老朽化に瀕している。2021年度以降の運行が未定となり、木次線沿線自治体の出雲市・雲南市・奥出雲町を訪問し、地域活性化検討委員会を開催。新しい地域活性となる題材を発掘すべく、各市町の推薦議員とともに自治体と意見交換を行っていく。

●福間裕隆県議の議会傍聴行動を行い、次期衆議院議員選挙をはじめとする、地方自治体選挙に全力を挙げて取り組む。

「ISSM」のグループ展開を！

佐野委員（金沢地方本部）

●芦原温泉駅構内での「待避不良」は、あわや触車の状況であった。3年前に発生した南福井駅構内での感電労災については未だに闘病中である。

●地本では、年に一回、グループ労組を交えての「安全ディスカッション」を開催している。

人材不足の中、安全の確立・発展は、一つの会社・系統だけでは難しいのではないか。グループ全体で共有できる安全システムも必要だと考える。安全マネジメントシステム「ISSM」のグループ展開を提案したい。

●組織について、20春闘の檄布行動や賃金昇進制度の見直しに向けた職場討議に取り組んでいる。

●JR連合北陸地協の活動としてJRイーストユニオン新潟地本と連携し活動をしている。

●20春闘について、「7年連続ベースアップ」、出向手当およびエリア手当の更なる改善を強く要請する。

育児休職を取得した社員が昇給欠格条項の査定期間対象になるのはおかしいのではないか。

●北陸新幹線について、今後、敦賀延伸に向けた新たな課題等に取り組む必要があると考え北陸新幹線対策委員会を開催する。中央本部から参加をお願いする。

●地方の悩みは支線区のあり方である。アーバンエリアとは違い、地方は削減ばかりである。特に金沢は、新幹線と残される支線区の維持管理が難しい。

JR連合が提言する「チーム地域共創」について、自治体との関係のなかで、地元議員の必要性を感じる。交通政策をすすめる会への加入行動に力を入れていきたい。

乗務員の要員需給が逼迫

吉重委員（広島地方本部）

●昨年11月に発生した不適切掲示問題では、福知山線列車事故のご遺族様をはじめ、多くの方々を深く傷つけ、改めて深くお詫びを申し上げる。

●西日本豪雨により不通の芸備線三次～狩留家間は、JR西労組、グループ労組、協力会社の組合員の懸命な努力で、昨年10月に全線開通。感謝を申し上げる。

●山陽線厚狭～埴生間における墜落、下関総合車両所における感電、山陽線小野田～厚狭における待避不良等、一歩間違えば命を落としかねない事象が多発。前日も山陽線八本松～瀬野間において、電気設備修繕中に墜落するという事象が発生。改めて事故に至った背景を労使で十分議論し、対策を実施していく。

●20春闘では、3月4日には、約300名規模で総決起集会を開催し、本部交渉団の後押しをする。

●早急に契約社員の廃止に向けたスケジュールの提案交渉をお願いしたい。

●乗務員の要員需給がかなり逼迫している。呉線ワンマン運転化の拡大。せとうち広島DCや「WEST EXPRESS銀河」、「etSETOra（エトセトラ）」等、新たな観光列車の利用拡大も予定。

本社・本部間の議論を要請する。

●工務関係の各職場より、被服の改善について再度検討をお願いする。

●施設、電気職場へのフレックス制度の拡大、フレックス導入職場における半休制度の導入をお願いする。

●作業責任者手当、獣害処理手当等を含めた諸手当の改善、地上職組合員の賃金向上について春闘の中でしっかり議論して頂きたい。

●昨年、JR西日本硬式野球部は日本選手権で惜しくも1回戦で敗退。今年も応援をよろしく！

獣害件数1000件！

尾崎委員（福知山地方本部）

●安全について、昨年12月25日に、山陰本線江原駅において、ホーム上からベビーカーが転落する事象が発生。ベビーカーのお子様にかすり傷を負わせた。発生直後より、迅速な対応を行っていただき、感謝を申し上げる。再発を防ぐべく、ハード対策について、しっかりと議論を行っている。

●獣害件数が、過去最高の約1000件を数えようとしている。多くは鹿だが、熊や猪との衝突もある。沿線自治体とも議論を行い、2020年度には、鹿柵の修繕を集中的に行うと聞いている。獣害、特に熊への対策は、夜間作業を伴うので、命に関わる。本部においても議論をお願いする。

●19春闘において、「成果に基づく安定的な還元」の必要性を、会社の回答から引き出した。この言葉を実行するためにも、今春闘の有額回答をお願いする。

京都府の時間最低賃金は909円。JR西日本基準で換算すると、月額144，417円。福知山エリアの高卒初任給は153，338円で、最低賃金との差は、8，921円しかない。これは、西日本の各県で最小である。まずは、エリア手当3％増額をお願いする。

●業務課題について、駅営業契約社員の段階的縮小・廃止について、京阪神3支社以降の議論が全く分からない。教えていただきたい。本部―本社間においても丁寧な対応をお願いする。

●2030年のありたい姿に向けて、遠隔MVの導入等により、建築や機械系統の負担が増している。現体制で対応出来るのか、本部―本社間の議論をお願いする。

羽野書記長 総括答弁

〝安全〟へと繋がる「安心して働ける」職場改革をめざして

安全について

JR西労組の強みは、業務に精通した組合員が、全ての職場におり、常に安全をチェックしていることである。そして、全ての組合員の安全意識・安全感度は高くなっている。そこは自信を持っていただいていいと思っている。

事象はなくならないし、減らないかもしれないが、リスクを一つずつでも減らしていくという努力を続けていくこと、リスクをきちんと想定できるように、日々研鑽をしていくことが大事だと考える。

それでも、事象が起きるのは、やっぱり余裕がないからだと思う。要員の問題もあるだろうし、業務量そのものが多すぎるということもある。

電気の施策交渉でも、かなり強く会社に言っている。特に、電気は、福知山線事故以降、工事量は、金額ベースで、1・5倍の高止まりをしている。余力・時間・余裕をどう作っていくかが課題である。「当たり前を当たり前に、余裕を持ってやる」。そんな職場にしていきたい。

春闘について

引き続き、7年連続となるベアにこだわって交渉を重ねていきたい。通期の見通し通りの決算が出れば、過去最高の数字が出るのは間違いがないと思っている。

新型コロナウイルスによりインバウンドの訪日客が減り、それに伴って、国内の移動も、減少する心配もある。

上村委員長を先頭に統一ベア3，000円に拘って闘っていく。是非とも皆さんのご支援、ご協力をお願いしたい。

賃金昇進制度見直し

皆さんの意見をいただきながら、来年再来年につなげていきたいと思っている。

職場のあり方提言委員会で取り組んできているテーマ、「女性活躍」「シニア・シニアリーダー」「NSを経ない登用」等については、賃金昇進制度が始まったからといって、疎かにすることはない。制度だけではなく、組合員が将来に渡って安心して働き続けられるような施策のスケジュールを考えて、進めていけるように、地本のみなさんの意見をいただきながら、やっていきたい。

賃金実態調査で、いろんな数字・結果・傾向が出てきている。それに基づいた申し入れを提出し、会社と運用についても、しっかりと取り組んでいきたい。

「職場のあり方提言委員会」の議論の延長線上に、「賃金昇進制度」があると思っている。みなさんの協力をお願いする。

業務施策については、業務量をきちんと見ながら、議論をしていく。春闘には間に合わないかもしれないが、申し述べておきたい。

組織について

東労組の問題は、組織が崩壊したことは民主化の取り組みの成果であり喜ばしいことではある。組合がないことで職場が混乱しているという現状も聞いており、組合の必要性が再認識された。東労組でのことを反面教師として、これからのJR西労組運動を進めてまいりたい。

JR連合の新春号に、荻山会長と法政大学の藤村先生の対談が掲載されていた。そこでおっしゃっていたのが、「労働組合の役割というのは、靴の中の小石を取り除くことである」と。靴の中の小石にしっかりと気づいて、会社と議論して、取り除く。これをしっかりとやれるのが、労働組合であると。また、分会長と現場長の日々の対話が大事だとおっしゃっている。ある地本では、全分会長と全現場長を集めた意見交換の場を設けてるような地本もある。是非、職場での取り組みを、地本・総支部としてサポートしていただければと思う。

原点に立ち返る

最後に、今年度のメインスローガンに「原点に立ち返る」という言葉を入れている。いろんな意味で原点に立ち返る必要があると思っている。

一つは、事故からまもなく15年。福知山線事故という原点に立ち返って考える必要がある。私たちが忘れてはならない安全の原点。もう一つは、組織率が、本部大会の時に95％をむかえようとしている今、国鉄改革の時、雇用不安が起きたその時の原点に立ち返る必要がある。

この1年間、その取り組みを、本部として、原点に立ち戻り、物事を考える。そのことを、是非、実践・実行をしていきたい。